

令和6年

高松市教育委員会10月定例会

会議録(抄本)

10月24日(木)開会

10月24日(木)閉会

出席した教育長及び委員			
教 育 長	小 柳 和 代		
委 員	塩 見 勝 彦		
	葛 西 優 子		
	小 方 朋 子		
	富 家 佐 也 加		
	和 泉 憲		
欠席した教育長及び委員			
委 員			
説明のため会議に出席した者等			
教育局長	一 原 玄 子		
教育局参事	前 田 康 行		
教育局次長 総務課長事務取扱	黒 川 桂 吾		
教育局次長 生涯学習課長事務取扱	佐々木啓明		
学校教育課長	岡 内 秀 寿		
文化財課長	川 畑 聰		
文化財課長補佐	小 川 賢		
こども保育教育課主幹	久 保 優 子		
総務課長補佐	春 日 布 三		
総務係長	唐 渡 み どり		
会議録署名委員	塩 見 勝 彦		
事務局担当書記	岡 谷 有 紗		

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（10月定例会）

日程第1 議案第23号 高松市歴史資料館等協議会委員の委嘱について

日程第2 報告事項

- 1 第3回園長・校長・副校長研修会における実践事例研修について
- 2 「令和6年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針」について
- 3 令和7年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて

【令和6年10月24日（木） 議 事 内 容】

午前9時30分 開会

教育長が、会議録の署名委員に塩見委員を指名。

日程第1 議案第23号

議案第23号 「高松市歴史資料館等協議会委員の委嘱について」

文化財課長から、高松市歴史資料館等協議会委員の委嘱について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

教育長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第2 報告事項

報告事項1 「第3回園長・校長・副校長研修会における実践事例研修について」

学校教育課長から、第3回園長・校長・副校長研修会における実践事例研修について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項2 「『令和6年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針』について」

学校教育課長から、「令和6年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針」について説明。

<質疑>

- 委員 質問紙調査の中で、学習へのICTの活用に関することについての問いがあり、ICT機器を週3回以上使用している割合が全国や県の割合を大きく下回っているという結果となっていました。AIドリルやベーシックたかまつもある中で、なぜその数値が低くなっているのか、分析をお願いします。

- 学校教育課長 学校でのタブレットの活用は、かなり進んできているのですが、子どもと先生方が思っている活用についての意識の違いもこの結果に繋がっていると思います。先生方としては割とタブレットを使う機会を捉えているのですが、子どもたちがタブレットを活用しているという実感をあまり持っていないというところも若干あり、タブレットを使わされているというように感じているのではないかと思います。小学校ではタブレットを使うことが増えてきていますが、中学校は少し活用率が低い状況にありますので、今後使用する機会を増やしていく必要があると思っています。

- 教 育 長 昨年、ICT教育推進室が分析をした結果では、電子黒板の活用率はほぼ100パーセントでした。高松市は、他の市町に先駆けて電子黒板を取り入れていたの
で、電子黒板の活用率が非常に高いのですが、タブレットについては、私なりに分析
したところ、全国一斉に配布したのですが、他県や他市ではICT支援員を早くから
配置していたのに対し、高松市はICT支援員の配置が少し遅れてしまったというこ
ろがタブレットの活用率が低い原因の一つではないかと思っています。ICT支援
員が配置される以前は、活用率が非常に低かったのですが、今年の6月からICT支
援員を配置して以降は、ICT支援員が手助けをしてくれたり、職員の研修の際にI
CT機器の様々な使用方法を説明してくれることで、高松市としては活用率が随分と
上がってきているのですが、スタート地点が非常に低かったため、まだ全国平均には
追いついていないというのが現状です。

- 委 員 学校訪問の際にタブレットを使っている教室もありましたが、一人で使うの
ではなく、グループワークをしているときに一台のタブレットをみんなで使いながら
調べ学習をしているという授業風景をよく見かけるのですが、一人一台タブレットを
使っているところを見る機会は少なかったように思います。グループワークでタブレ
ットを使っているところを見ても、おそらく得意な子がタブレットを触って、苦手な子はあまり触
っていないという風に格差があるように感じました。

- 教 育 長 タブレットは、グループ活動やペア学習、個別学習などの様々な学習に活用
できます。グループで一台使用していたのは、グループで何か一つの課題に向かって
みんなで意見を出し、タブレットを使ってみんなの意見を集約して提出し、電子黒板
で各グループの意見を比べたりしている授業の場面だと思えます。

- 委 員 2時間目と3時間目の間の長い休み時間ではタブレットを自由に使っていい
そうで、学校訪問の際に各自タブレットを取り出して使っていたのを見かけたので
すが、授業が始まるとあまり使えていないように感じました。タブレットの活用があま
り進んでいないという印象を持ちました。

- 教 育 長 タブレットの持ち帰りについても今年度から進んではきていますが、必ず課題を与えて持ち帰らせている学校もあれば、そういう対応があまりできていない学校もあります。やはり学校訪問を通して見ても、もう少しタブレットが有効に活用できるのではないかという御意見があるということですね。

- 委 員 昨日、学校訪問をさせていただきましたが、子どもたちのタブレットの使い方への差が非常に大きいと感じました。また、タブレットを使いながら紙ベースの資料に手書きをしていたりして、一つのことに対して2つの作業をしているので大変そうでした。タブレットと紙ベースの資料を置くと、机も窮屈そうに感じました。子どもたちの机をもう少し大きくするか、サブの机を置くなどすると、使いやすくなると思います。低学年の児童は、机が狭くてタブレットをよく落とすと聞いたので、子どもたちがタブレットを使うときの環境を整えてあげるべきだと思います。

- 学校教育課長 昔使用していた机と比較すると若干大きくはなっていますが、タブレットと紙資料の両方を開くと机が狭くなるので、置き方は工夫する必要があります。サブの机を置くとすると、教室もそんなに広くないので難しいと思います。

- 委 員 どの学校も大きい机が欲しいと言っていたので、大きい机を入れてあげるといいと思います。高学年になると体は大きいのに、机のサイズは小さくて体に合っていないと思いました。

- 教 育 長 新しい規格の机が入った学校もありますし、まだこれからという学校もありますね。ちょうど机の入れ替えの時期ですよ。

- 学校教育課長 入れ替えの時期です。新しい規格の机を可能な限り入れられるようにできたらいいと思います。

- 教 育 長 I C T関係の御質問をたくさんいただきましたが、I C T関係以外の御質問や御意見はありませんか。

- 委員 質問紙調査の中で、自分自身に関することの問いに「自分には、よいところがあると思う」という質問がありますが、十数パーセントの子どもは、自分によいところがあると思っていないという結果になっていますが、なぜこのような結果になっているのでしょうか。質問を「自分には悪いところもあるが、よいところもあると思う」という質問に変えると、自分にはよいところがあると回答する子どもの割合がかなり上がると思います。

- 学校教育課長 この自尊感情に関わる部分ですが、いつも結果が低く、高松市としては課題です。学校でも、自分の得意なところを発表できるような発表会を休み時間に設けて付き合うなど、自尊感情を高めるような取組も進めていますが、なかなか自信が持てない子がいるのも現状です。今回を含め、自分にはよいところがあると回答する子どもの割合は、少しずつではありますが、上がってきています。質問の中身については、ずっとこの質問で続けてきているので変更することは難しいと思います。

- 委員 子ども会をしている中で感じているのは、高松の子どもは照れ屋なので、自分を本当はよいと思っていても、自分のことを自分でよいと言えない子どもたちがたくさんいると思います。特に、市の中心部在住の子どもに比べて合併町在住の子どもはもっと照れ屋なので、それぞれを数値的に表すと差が出ると思います。市の中心部在住の子どもは、全国平均値に近い数字が出るのではないのでしょうか。合宿の引率をしていると、学校の地域差を感じることもあるので、今後、子どもたちの目線で中心部と合併町で比較した資料も参考としてぜひ見てみたいと思います。

報告事項3 「令和7年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて」

こども保育教育課主幹から、令和7年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて説明。

<質疑>

- 委員 特別な支援を要する子どもたちは、小学校に上がれば特別支援学校や特別支援学級がありますが、保育の現場では特別な支援を要する子どもたちだけの支援学級等について法律等で定められていないと思います。他の自治体では幼稚園の段階で支援学級のようなものを作っているところもあるようです。高松市は幼稚園教育も充実しているので、今後、公立幼稚園の役割として、特別な支援を要する子どもたちへの教育にも力を入れていただきたいと思います。

- こども保育教育課主幹 年々、特別な支援を要する子どもの割合は増えてきています。全体の園児数に比べて、特別な支援を要する子どもが増えているので、現在、幼稚園でも全園児数の約半数が特別な支援を要する子どもとなっています。全体の園児数自体が減ってきていることもあり、このような結果になってきていますが、公立としては受け入れを拒まないというところと、私立幼稚園や私立保育園の受け皿になっているという役割もあるので、それも考慮しながら、今後検討していきたいと思います。また、現在、専門的な資格を持った教員がないということも考慮していきたいと思っています。

議決事項

「高松市歴史資料館等協議会委員の委嘱について」